

発行日： 2016-01-18

改訂日： 2024-01-16
バージョン 3

1: 化学品及び会社情報

製品名 DNA Binding Buffer

製品番号 10007

安全データシートの提供者の詳細

製造業者

Cell Signaling Technology
3 Trask Lane
Danvers, MA 01923
United States
電話 +1 978 867 2300
ファックス +1 978 867 2400
メールアドレス

販売業社

CSTジャパン株式会社
東京都千代田区内神田1-6-10
笠原ビルディング10階 〒101-0047
電話: 03 (3295) 1630

regulationjp@cellsignal.com

化学薬品の推奨用途および使用制限

推奨用途及び使用上の制限 ライフサイエンス研究用試薬

2. 危険有害性の要約

GHS - 分類

引火性液体	区分 2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2
生殖毒性	区分 2
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 1
区分 1 中枢神経系	
区分 3 呼吸器刺激性	
特定標的臓器 全身毒性 (反復)	区分 1
区分 1 血液系	
区分 2 呼吸器、肝臓、脾臓	

ラベル要素



注意喚起語

危険

危険有害性情報

H225 - 引火性の高い液体及び蒸気
H302 - 飲み込むと有害
H315 - 皮膚刺激
H319 - 強い眼刺激
H361 - 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

H370 - 臓器の障害

H372 - 長期にわたる, 又は反復ばく露による臓器の障害

安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。容器を密閉しておくこと。容器を接地すること／アースをとること。火花を発生させない工具を使用すること。静電気放電に対する予防措置を講ずること。防爆型の電気機器／換気装置／照明機器／機器を使用すること。取扱い後は顔、手、露出した皮膚をよく洗うこと。この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を使用すること。粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

対応

ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。

眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合: 気分が悪いときは医師に連絡すること。口をすすぐこと。

皮膚に付着した場合: 多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。汚染された衣類を全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

火災の場合: 消火するために粉末消火剤、CO₂(二酸化炭素)、水噴霧又は耐アルコール泡消火剤を使用すること。

保管

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。施錠して保管すること。涼しいところに置くこと。

廃棄

内容物/容器を承認を受けている廃棄物処理施設に廃棄すること。

他の危険有害性

該当せず

3. 組成及び成分情報

化学物質名	重量%	化審法番号	ISHL番号	CAS番号
イソプロピルアルコール	30-60	情報なし	2-(8)-319	67-63-0

4. 応急措置**吸入した場合**

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師に相談する。呼吸していない場合は人工呼吸を行うこと。

皮膚に付着した場合

汚染された衣服と靴を脱いで、直ちに石けんと多量の水で洗浄する。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

眼に入った場合

まぶたの裏側まで多量の水で十分に洗うこと。洗っている間、目を大きく開くこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐ。多量の水を飲むこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。医師の指示がない場合は、無理に吐かせないこと。意識のない者には、何も口から与えてはならない。

**予想される急性症状及び遅発性症状
医師に対する特別な注意事項**

頭痛、眼および皮膚を刺激する、めまい、咳及び/又は喘鳴
症状に応じて治療すること

5. 火災時の措置**適切な消火剤**

現地の状況および周囲環境に適した消火方法を用いること。
水スプレーで容器/タンクを冷却すること
粉末消火剤
二酸化炭素(CO₂)
耐アルコール泡消火剤

使ってはならない消火剤	高圧水で漏出物を散乱させてはならない。
化学物質または混合物から生じる特有の危険有害性	熱分解すると刺激性のガスおよび蒸気を放出することがある。
引火性の特性	引火性液体
特有の消火方法	水噴霧でドラムを冷却すること
消火を行う者のための特別な保護具	消火を行う者は自給式呼吸器および消火活動用の装備を着用しなければならない。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	すべての着火源を排除すること。保護具を使用する。静電気に対する予防措置を講ずる。熱、炎および火花。十分換気されているか確認すること。
緊急措置	項目8で推奨されている個人用保護具を着用すること。
環境に対する注意事項	地上水または下水施設に流さないこと。火災および爆発の防止。蒸気を減らすために蒸気抑制泡を使用することができる。地下水を汚染してはならない。蒸気はほとんど空気より重い地面を渡って広がり、低くて狭い場所に集まる(下水、地下室、タンク)。
封じ込め方法	安全に行えるなら、それ以上の漏出または漏洩を防ぐこと。
浄化方法	漏出液を砂、土またはその他の不燃性の吸着材料で覆うこと。粉末状の漏出物をプラスチックシートまたは防水シートで覆い、拡散を最小限にする。防流堤を築いてせき止めること。回収して適切に表示された容器に移すこと。
二次災害の予防	環境規則に従って汚染された物体および区域を十分に浄化すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱注意事項	産業衛生および安全対策規範に従って取り扱うこと。裸火、高温面および着火源から遠ざけること。静電気に対する予防措置を講ずる。耐炎性装置のある場所でのみ使うこと。静電気放電による発火を回避するために、装置の金属部分をすべて接地する。適切な排気装置が設置されたエリアでのみ使用する。保護具を着用する。蒸気、ミスト、エアロゾルの発生を防ぐ。装置のアース接続によって静電気がたまるのを防ぐ。布や紙など流出物を取り除くのに使われ、物質を吸収したすべてのものは危険である。それらを溜めておかず、使用後すぐに安全に廃棄すること。汚染された衣服は洗浄してから再使用すること。十分換気されているか確認すること。
----------	---

保管

保管条件	容器を密閉して乾燥した涼しく換気の良い場所に保管すること。
------	-------------------------------

8. ばく露防止及び保護措置

技術的対策	シャワー 洗眼ステーション 換気システム
-------	----------------------------

ばく露ガイドライン

化学物質名	日本産業衛生学会	ISHL作業環境評価基準 - 管理制御レベル	ACGIH TLV
イソプロピルアルコール 67-63-0	Ceiling: 400 ppm Ceiling: 980 mg/m ³ ISHL/ACL: 200 ppm		STEL 400 ppm TWA : 200 ppm

生物学的職業性ばく露限界値

化学物質名	日本産業衛生学会	ACGIH
イソプロピルアルコール 67-63-0		40

環境ばく露防止

情報なし

個人用保護具

呼吸用保護具

暴露限度を超えるか刺激が生じる場合には、NIOSH/MSHA認証の呼吸保護具を着用しなければならない。

手の保護

不浸透性手袋

眼/顔面の保護

密着性の高い安全ゴーグル

皮膚および身体の保護

適切な保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的特性に関する情報

特性	値
外観	
物理的状态	液体
色	透明
臭い	特異臭
融点/凝固点	情報なし
沸点又は初留点及び沸点範囲	情報なし
引火性	情報なし
燃焼又は爆発の上限/下限	
下限	2%
上限	12%
引火点	21 °C
自然発火温度	425 °C
分解温度	情報なし
pH	7.0 @ 20 °C
粘度	情報なし
溶解度	
相対ガス密度	情報なし

その他の情報

爆発性	情報なし
酸化特性	情報なし

10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし
安定性	通常の条件下で安定
危険有害反応可能性	通常のプロセスではない
避けるべき条件	熱、炎および火花
混蝕危険生成物	酸、強力な酸化剤
危険有害な分解生成物	熱分解すると刺激性のガスおよび蒸気を放出することがある

11. 有害性情報

急性毒性

化学物質名	LD50 経口	LD50 皮膚	LC50 吸入
イソプロピルアルコール	5000 mg/kg (Rat)	12800 mg/kg (Rabbit)	16000 ppm (Rat) 8h

症状 頭痛
眼および皮膚を刺激する
めまい
咳及び／又は喘鳴

製品情報

経口 飲み込むと有害のおそれ。

吸入 眠気又はめまいのおそれ。

皮膚腐蝕性 / 刺激性 刺激を生じるおそれ。

眼に対する重篤な損傷 / 刺激性 眼に接触すると刺激を引き起こすおそれがある。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 眼を刺激する

呼吸器感受性または皮膚感受性 情報なし

生殖細胞変異原性 情報なし

発がん性 情報なし

生殖毒性 製品は、既知の生殖危険有害性である、または生殖危険有害性が疑われる化学物質である、またはそのような化学物質を含んでいる。

特定標的臓器・全身毒性 (単回) 臓器の障害

中枢神経系

特定標的臓器・全身毒性 (反復) 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害

血液系
呼吸器
肝臓
脾臓

吸引性呼吸器有害性 情報なし

12: 環境影響情報

生態毒性 この製品の環境に与える影響は完全に調査されている。

化学物質名	藻類に対する毒性	魚類に対する毒性	ミジンコおよび他の水生無脊椎

			動物に対する毒性
イソプロピルアルコール	EC50 1000 mg/L (Desmodemus subspicatus) 96 h EC50 1000 mg/L (Desmodemus subspicatus) 72 h	LC50 9640 mg/L (Pimephales promelas) 96 h LC50 1400000 µg/L (Lepomis macrochirus) 96 h LC50 11130 mg/L (Pimephales promelas) 96 h	EC50 13299 mg/L (Daphnia magna) 48 h

残留性・分解性 易生物分解性
 生物蓄積 生物濃縮される可能性は低い

化学物質名	オクタノール/水分配係数
イソプロピルアルコール 67-63-0	0.05

内分泌かく乱物質情報 この製品は、既知の内分泌かく乱物質または内分泌かく乱が疑われる物質を一切含有していない。

13. 廃棄上の注意

残留物/未使用製品からの廃棄物 現地の規則に従って廃棄すること。環境法律に従って廃棄物を廃棄すること。
 汚染された梱包 空容器を再利用しないこと。

14: 輸送上の注意

IMDG/IMO

国連番号 UN1219
 国連輸送名 Isopropanol
 輸送における危険有害性クラス 3
 容器等級 II

ADR/RID

国連番号 UN1219
 国連輸送名 Isopropanol
 輸送における危険有害性クラス 3
 容器等級 II

IATA

国連番号 UN1219
 国連輸送名 Isopropanol
 輸送における危険有害性クラス 3
 容器等級 II

日本

国連番号 UN1219
 国連輸送名 Isopropanol
 輸送における危険有害性クラス 3
 容器等級 II

15: 適用法令

化学物質又は混合物に固有の安全、健康および環境に関する規則/法律

国際規則

労働安全衛生法

化学物質名	区分	政令番号	含有率 %
イソプロピルアルコール 67-63-0	安衛法表示対象物質	別表第9の494	30-60

16: その他の情報

発行日: 2016-01-18

改訂日: 2024-01-16

改訂記録 SDSの余白にある記号(*)は、その行が改訂されたことを示す。

安全データシートで使用される略語および頭文字のキーまたは凡例

凡例 項目8: ばく露防止及び保護措置

TWA: 時間加重平均値

* 皮膚兆候

Ceiling:

+

最大限值:

感作物質

本SDSの編集に使用した主要参考文献およびデータ源

環境有害物質・特定疾病対策庁 (ATSDR)

米国環境保護庁ChemViewデータベース

欧州化学品局

欧州食品安全機関(EFSA)

EPA (環境保護庁)

急性暴露ガイドラインレベル(AEGL)

米国環境保護庁、連邦殺虫剤、殺菌剤、殺鼠剤法

米国環境保護庁高生産量化学物質

フードリサーチジャーナル (Food Research Journal)

危険有害性物質データベース

国際統一化学情報データベース (IUCLID)

日本GHS分類

オーストラリア国家工業化学品届出審査機構(NICNAS)

NIOSH(国立労働安全衛生研究所)

米国医学図書館ChemID Plus(NLM CIP)

米国医学図書館のPubMedデータベース(NLM PubMed)

米国国家毒性プログラム(NTP)

ニュージーランド 化学物質分類・情報データベース(CCID)

経済協力開発機構、環境・健康・安全に関する文書

経済協力開発機構、高生産量化学物質点検プログラム

経済協力開発機構、スクリーニング情報データセット

RTECS (化学物質毒性データ総覧)

世界保健機構

免責事項

このSDSは、JIS Z 7252:2019およびJIS Z 7253:2019(日本)の要件に準拠しています。この化学物質等安全データシートに記載されている情報は、その発行日の時点において、我々の知識、情報および信念のおよぶ限りにおいて正確なものです。ここに提示されている情報は、安全取扱、使用、加工処理、保管、運搬、廃棄、および放出の指針とすることのみを目的としたものであり、保証または品質仕様と考えるべきものではありません。この情報は、指定された特定の物質にのみ関連するものであり、本文中に明記されている場合を除き、他の何らかの物質と併用した場合、または何らかのプロセスに使用した場合には、有効でなくなる場合があります。

安全データシート 終